

◆こどもがまんなかフォーラム2010開かれる

「幼保一体化に対する緊急アピール」を採択 シンポジウム、hitomiさんのミニコンサートなどで 子どもにとって大切な環境を再確認

11月17日(水)、全日本私立幼稚園PTA連合会、全日本私立幼稚園連合会、財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構共催による「こどもがまんなかフォーラム2010～第25回全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会～」が開催され、全国から約2,000人の参加を得て東京都渋谷区のCCレモンホールで開催されました。開会式では河村建夫P連会長のあいさつの後、鈴木寛文部科学副大臣からご祝辞をいただきました。

シンポジウムでは、「元気と笑顔を大切に 明日を生きぬく心と力を育もう」をテーマに、パネリストに鈴木寛文部科学副大臣、平尾誠二さん(神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー兼総監督、元ラグビー日本代表監督)、中井貴恵さん(女優・エッセイスト)、コーディネーターに木佐彩子さん(フリーアナウンサー)をお迎えし、幼保一体化やこれからの子どもにとって大切な環境などについて討議が行なわれました。

続いて、hitomiさん(シンガーソングライター)によるミニコンサートが行なわれ、「こどもがまんなかプロジェクト」キャンペーンソング『生まれてくれてありがとう』が披露されました。

フォーラムの最後に、「幼保一体化に対する緊急アピール」の採択を参加者に諮り、拍手により採択されました。また、フォーラム終了後に「幼稚園制度の廃止を前提とした幼保一体化論」に反対する署名を集め、拙速な政府の幼保一体化論議に対して反対することについて参加者全員で共通理解を深めました。

[今号は2枚]

※都道府県団体におかれましては、お手数ですが本紙を加盟園へご伝達くださいますようお願い申し上げます。

※幼保一体化に関しましてご意見がありましたら全日私幼連宛にFAXまたはメールでお寄せください。

FAX : 03-3263-7038 メール : info@youchien.com

幼保一体化に対する緊急アピール

明治維新後に学制が頒布された後、遷都により京都の荒廃を憂えた時の町屋衆が、浄財を集めていくつかの学校と幼児のための教育施設を設置しました。1876年(明治9年)、京都の町衆によって初めて幼稚園が設置されたことにより、その歴史が始まりました。この135年にも及ぶ幼児教育の歴史が、今、否定されようとしています。

この度、内閣府の会議で、10年程度の経過措置の後、幼稚園と保育所を廃止して、「こども園(仮称)」に統合する方針が示されました。

しかしながら、今回示された方針は、それぞれの地域、それぞれの家庭の多様な状況を見做し、政府が決める画一的な制度の中に子どもの教育・保育を押し込めようとするものであります。

幼児期からの教育の重要性がますます高まるとともに、各地域や家庭のニーズが多様化する中、今求められていることは、待機児童の解消策を始め、質の高い教育・保育の機会を多様な形でしっかりと提供し、それぞれの地域・家庭の状況に応じて選択し、享受できるようにすることにあります。

特に、幼稚園の大半を担う私立幼稚園は、それぞれの建学の精神に基づき、特色ある教育・保育を展開し、保護者も、その園の教育・保育方針に共鳴し、選択しています。

今回の方針は、こうした保護者を始めとする多くの関係者の「それぞれの子どもの状況に応じたよりよい多様な教育を」という思いを見做するものであり、到底認めることはできません。

繰り返します。今、求められているのは待機児童の解消策であり、画一的な制度の適用により、子どもたちの多様な学びの機会を奪うことでは決してありません。幼稚園制度、保育所制度を廃止し「こども園(仮称)」に移行する一体化によって、私たちの選択の自由を奪うのではなく、家庭の状況や思いに応じ、幼稚園、保育所や認定こども園を選択する自由を願います。社会全体で子どもの学びと育ちを支援していくことにより、父母などの保護者が安心して育児ができ、子どもの成長に合わせて仕事ができる社会の実現を願います。

今一度、国民が何を求めているのかという基本に立ち返り、いたずらに現場に混乱を招くことの無いよう、社会全体で子どもの学びと育ちを支援する「幼保一体化」制度の構築を求めます。

平成22年11月17日

全日本私立幼稚園PTA連合会
第25回全国大会